

# 令和4年度事業報告書

〔自 令和4(2022)年4月1日 至 令和5(2023)年3月31日〕

令和4年度は新型コロナウイルス感染症(以下「感染症」という。)による行動制限はある程度影響したものの、感染症対策を行いながら経済も活発化させていくという「両輪」活動が一般的な考え方、動きとなりました。

今年度上半期は行動が慎重な企業や来館者も目立ちましたが、年度後半になるにつれ、今までのように急な貸館キャンセルも減少し、企業催事も通常開催に近い形で行われるようになりました。

それと共に、徐々に来館者も回復傾向となりました。

ただし、「岐阜県現代陶芸美術館」が中長期保全計画に基づく施設全体の「空気調和機更新及び照明機器更新工事」改修に伴い、令和3年11月8日から令和4年9月15日まで長期休館となったことは令和4年度上半期の当館への来館者数やショップ運営に対して非常に大きな影響を及ぼしました。

しかしながら本年10月に開館20年目を迎えた「セラミックパークMINO」施設全体を今まで以上に活用し、「共創」の精神で岐阜県東濃西部地域の美濃焼産業、文化及び観光の振興に努めました。

特に開館20周年記念事業は「岐阜県現代陶芸美術館」と令和3年度から合同で企画立案を行い開催したことで、改めて近隣住民の皆さまへ当施設の素晴らしさや、この地の焼き物文化を再発信することができました。

また、近隣文化施設、民間企業施設との連携も図り、観光の創出などを実現させました。

令和3年度より次代に繋げる地域振興の取組みとして民間主導で動き出した「セラミックバレー」構想も当財団を事務局として、より積極的に活動し、各業界、団体と連携を図りながら推進してまいりました。

感染拡大防止の取組みも、引き続き怠ることなく国、県の感染防止対策に沿って対応し可能な限りの事業を推進しました。

令和4年度の詳細な事業報告は、次のとおりです。

## I 健全で魅力ある施設の運営

当施設の設置目的である陶磁器を主とした岐阜県東濃西部地域の産業、文化及び観光の振興の拠点施設として、民間経営理念による健全で魅力ある施設運営を次のとおり実施しました。

### 1 利用者サービス向上の取組み

来場者数推移

年 度	R4	R3	R2	R1	H30	H29
開館日数	359	359	360	359	359	359
来場者数	136,005	94,992	83,962	184,556	249,991	250,259
(内)美術館	27,793	28,078	29,406	24,912	68,413	32,283

感染症の影響も落ち着き、来場者数は増加傾向となりましたが、岐阜県現代陶芸美術館の休館に伴い来場者数に大きな影響を与えました。

今後も当館へのリピートユーザーになっていただける施設づくりを進めるため、定例会議において課題を検討し、利用者へのサービス向上に努め、次のとおり来場者サービスを実施しました。

(1) 総合案内サービス（年末年始及び毎週月曜日を除く全日）

ショップスタッフが来館者に対し、美術館、作陶館、展示ホール等のイベントなど施設全般の案内に加え、近隣の観光施設、食事処、地域イベントなどの周辺情報を提供し、地域の観光やアフターコンベンションに関する案内を行いました。

公共交通機関でのアクセス方法の周知やバスの時刻表、施設までのタクシーの配車などの要望にも迅速に対応しました。

また、施設の見学希望があった際には、事務所スタッフと連携し、懇切丁寧な案内や説明に努めました。

(2) 利用者の意見の反映や苦情への対応

① 来館者アンケート

お客様の率直な意見を伺うため、施設内3か所にアンケートボックスを設置しました。楽々市(あきんど市)開催時や20周年記念事業開催時には特別にアンケートコーナーを設置しました。

また、2階ショップでも独自のアンケートを行いました。

なお、アンケート結果はスタッフ全員で回覧・周知し、施設運営、イベントの企画内容等の改善に活かすよう努めました。

施設内アンケート回収数 318枚

② 貸館施設利用者アンケート

すべての貸館利用者に対して、窓口でアンケート用紙を配付する形で実施しました。

回収した意見、要望は日々確認を行い、設備・備品等の管理、補充、修繕など貸館業務にかかわる一切を万全の体制で臨むとともに、良好な施設利用環境の整備に努めました。

施設利用者アンケート回収数 194枚 (利用 308件 回収率: 63.0%)

③ 苦情・要望

ショップでインフォメーション業務を実施しました。担当者が伺ったお客様からのクレーム等を日報に記入し、職員全員が情報共有し、施設全体の改善に活用しました。

(3) 快適な施設環境の整備

来館者の快適な施設を創出するため、全職員が施設内の移動の際に注視し、施設環境の確認やお客様マナー向上などに努めました。

(4) 望遠鏡の設置

11月24日、屋上広場および展望台に望遠鏡を2台設置しました。

期限のないリース契約で初期投資はありません。100円で100秒稼働するもので、利用料金の2割が財団の収入となります。3月末現在で155回の利用がありました。

## 2 貸館施設稼働率向上の取組み

令和4年度は感染症の拡大が完全に終息はしていなかったため、年度前半は積極的な営業を控えてきました。また、通年で利用いただいている企業も催事の開催に慎重なスタンスを取っているところが少なくなかったため、催事内容に考慮し声掛けをしてきました。

こうした中、年度後半には催事開催に積極的な企業も増加し、貸館利用が活発化してきたため、利用者に対して、当施設の感染防止対策を周知しながら、次のように稼働率向上に向けた取組みを行いました。

ア 賛助会員として加盟している「公益財団法人名古屋観光コンベンションビューロー」での誘致活動を再開。2月に開催された同団体の「懇親会」に参加し、加盟団体に対し積極的な誘致活動を行いました。

イ 貸館施設の予約については、県有施設予約システムを利用し、スムーズで正確な貸館空き情報の提供を行いました。当面、利用申し込みは、電話、メール等による受付とし、利用受付にあたっては従来と同様にお客様の利用内容や規模に合わせた丁寧な対応を行いました。また、仮申し込みと日程が重なった際は速やかに双方に連絡、調整を行い、本決定を取り逃さないよう努めました。併せて条例施行規則や利用料金規程に基づく適正な管理、適切な使用についての周知を図りました。

ウ 新規の施設利用者に対し、施設の利用支援業務の需要を把握するとともに、次のとおり利用形態に応じたきめ細かな利用支援を行い、今後の継続利用に結びつくよう努め、施設の稼働率、収益性、集客力の向上を目指しました。

- ・[開催前における必要経費、備品の確認、搬入・設営の段取りの支援]
- ・[設営時、撤去時における財団職員等立会による支援]
- ・[チェックシートによる備品等の利用希望記録及び確認の実施]

エ 貸館施設の利用希望者には、要望に応じて随時館内を案内するなど、懇切丁寧な説明を心掛けました。

オ 陶磁器産業の振興等を目的とした展示ホール及び国際会議場の利用者には、減免制度の周知を図りました。

カ 感染防止対策として、入場者数の制限や、ソーシャルディスタンスの確保、対面を避けるレイアウト等、催事主催者と綿密に確実な打合せを実施。大規模催事開催にあたっての県感染症対策調整課への事前相談等、開催支援を行いました。

キ 机や椅子等、貸出備品は貸館利用後に消毒を実施し、非接触体温計や空気清浄機等の感染対策用備品の無料貸与も行う等、感染防止対策を徹底しました。

ク 以前から粘り強く施設利用を働き掛けてきた民間企業が、8月13日、14日の2日間、岐阜県下では初となる「鉄道フェスタ」を展示ホールで開催することが実現しました。財団としては、集客のため主要メディア（中日新聞社、岐阜新聞、岐阜放送）への広報展開に対して支援を行いました。当日は大盛況であった為、急遽11月19日、20日にも屋上広場を使用して同催事を開催いただきました。

## ■貸館稼働率

感染症対防止対策の徹底と催事開催企業の増加により、稼働実績は次のとおりとなりました。

[令和4年度貸館稼働率]

施設名	令和4年度 目標稼働率	令和4年度 実績	令和3年度 実績	令和2年度 実績	令和元年度 実績
展示ホール	40 %	45.7%	43.7 %	22.8 %	49.7 %
国際会議場	30 %	35.1%	31.5 %	31.2 %	30.6 %
イベントホール	40 %	37.9%	22.0 %	18.9 %	36.4 %
小会議室	40 %	41.2%	36.2 %	18.9 %	44.7 %
茶室	20 %	10.6%	6.7 %	5.0 %	8.1 %
屋上広場	30 %	17.5%	6.7 %	8.4 %	10.6 %

### 3 セラミックパークMINO作陶館の運営

- ・作陶指導スタッフの人員不足により、作陶・上絵付け体験の受け入れを休止せざるを得ない期間（4月～5月は完全休止。6月から一部再開）が発生しました。また、年間を通して人員不足が完全に解消することが出来ず、変則的な営業となりました。
- ・年間講座は、令和3年10月から令和4年7月までの35回講座を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大等による休講・振替により令和4年9月まで期間を延長しました。次期講座は回数を減らし、前期／後期として開催する予定です。

前期 令和5年1月～8月 / 後期 令和5年9月～令和6年3月

#### (1) 作陶・上絵付け体験

毎週金・土・日は、作陶体験の希望者が気軽に参加できる作陶、上絵付けの体験コースを引き続き実施しました。また、スタッフの弾力的な人員配置を行いながら団体客の受け入れにも可能な限り対応しました。

##### ① 体験の種類

- A：上絵付けコース → 転写シートを切り貼りして楽しく簡単に絵付け体験  
 B：作陶2コース → ロクロまたはタタラで粘土を器の形にするまでの初級者体験  
 C：作陶1フルコース → 上記Bコースをより本格的に2～3回に分けて行う体験

##### ② 体験の人数

全体総数：834人（目標人数：2,500人）

内訳

- Aコース 356人（前年度125人）  
 Bコース 403人（前年度654人）  
 Cコース 75人（前年度32人）

#### (2) 陶芸講座

毎週火・水・木を中心に、じっくり陶芸に取り組みたい方や陶芸の経験者を対象に伝統工芸士を講師に迎え、少人数できめ細かい指導を行う年間講座を開設しました。なお、

作陶館休止中の講座分は日程変更のうえ実施しました。

[年間講座]

- ・毎週火・水・木の各午前・午後 計6講座
- ・1講座当たり定員4から7人 計32人
- ・1講座 前年度継続分7月まで11回  
10月から翌年7月まで35回
- ・作品展（2日間） 12月10日、11日開催

### (3) その他

各地のお祭りへ出向く出張作陶体験は、感染症の影響により、すべて実施できませんでした。現代陶芸美術館との連携企画「四季のワークショップ」は11月より再開しました。

## 4 ショップ&ギャラリーMI-NOの運営

美濃焼産業の発展に寄与するため、美濃焼を販売するショップの運営を、財団の自主事業として実施しました。陶芸の専門美術館を有する公共施設のショップとして、旬な地元メーカーの商品や作家作品をセレクトし、質が高く多様な表現のある美濃焼の魅力をアピールする品揃えを意識しました。

- ・上半期は美術館の休館が大きく影響し、ショップの売上が大きく減少しました。
- ・電気代・燃料代の高騰などによる消費低迷の影響も受けてか、レクサス事業の売上も伸びませんでした。

### (1) ショップ&ギャラリーMI-NO 来客数及び売上の推移

年 度	R4	R3	R2	R1	H30	R29
営業日数	301	270	251	309	315	306
来客数	4,202	3,919	4,426	5,173	7,833	6,998
売上額	11,371,769	10,456,553	12,139,751	13,126,133	17,134,859	20,381,482
レクサス	8,182,761	12,153,537	6,042,465	9,257,092	7,059,899	4,107,790

### (2) 売り上げの向上の取組み

- ① ディスプレイには、四季折々の変化と行事を取り入れ、常に食卓目線のコーディネートを実施。
- ② 取扱い商品のクオリティ向上。
- ③ ギャラリーコーナーでは陶芸家、木工、ガラスなどのクラフト作家による展示や職員のセレクトしたテーマ展示などの企画展を実施。
- ④ 陶磁器のみならず地元で活動している作り手の異素材のクラフト作品等の展示販売を実施。
- ⑤ 接客はお客様への声掛けを基本とし、安心して買い物ができる雰囲気を出し。
- ⑥ 陶磁器産地ならではの魅力的な品揃え。
- ⑦ 親しみやすいガチャガチャ（箸置き）の新規導入。

### (3) 接客改善

お客様に対して、器の使い方や美濃焼の説明等ができるよう、定期的にスタッフ研修を実施しました。

#### (4) 調査・広報

- ① 新作の動向を調査。
- ② インターネット、SNSを活用した販売促進活動を実施。

### 5 飲食施設の委託運営事業の実施

飲食施設は、美術館と貸館施設を擁する施設にとって、来館者のために必要な施設です。現在の飲食施設は、令和元年8月1日よりダイドーキッチンと委託契約を締結し、より良いサービスを提供するため、施設利用者情報の提供及び情報交換を継続的に行ってきました。

令和4年度も上半期は感染症の影響および美術館休館のため、来館者の回復は見られなかったことから不定期営業としました。

美術館の再開にあわせ、9月17日からランチタイムの通常営業を再開しましたが、感染症前の利用実績とは程遠い状態であったため、来期の契約に関して財団、レストラン双方で検討を行い、使用面積を減らすことで目的外使用料を減額し、令和5年度も継続していただけることとなりました。

レストランはランチを一新し「少し豪華なランチ」として営業を続けています。次年度以降も財団と協議しながらイベントなどを実施することも検討していきます。

### 6 施設としての魅力創造

多様な魅力を備えた施設を最大限に活用し、来館者の増大につなげるため以下の取組みを実施しました。

#### (1) 回廊及びエントランスを魅せる空間として活用

ア エントランスでは、美濃焼に関する催事、周辺施設の施設案内や催事情報に関する各種パンフレットやチラシ等を常置し、回廊壁面ではポスター掲示により、地域文化、産業、観光の情報発信の場として活用。

イ アルコーブにおいて、国際陶磁器フェスティバル美濃の受賞作品や美濃焼の展示を行い、魅力的な空間を演出。

#### (2) 自然観察会の開催及び里山の整備

ア 希少植物“シデコブシ”など、施設をとりまく恵まれた自然環境を保全し、地域の自然を体感できる「里山憩いゾーン」の整備を継続し、幅広い層への啓発を実施。

イ 親子参加を対象とした自然観察会「森の観察会」を実施し、昆虫採集体験など、楽しんで参加できる体験ツアーを実施。

※毎月、楽々市にあわせて実施。

#### (3) 「セラパークあそび隊」事業の実施

“みんなが楽しくあそべるセラミックパークMINO”を目指して、岐阜県森林文化アカデミー、岐阜県現代陶芸美術館、当財団の3者が協力して、施設の内外に親子で遊ぶことができる場所を設け、自然とアートに触れる体験事業を開催しました。

※毎月、楽々市にあわせて実施。

(4) 岐阜県現代陶芸美術館との連携

作陶体験施設の集客を促進する観光施設として、また、県民への陶芸美術の涵養と陶磁器産業の振興に資するため、岐阜県現代陶芸美術館（以下「美術館」）と連携を図りました。

- ① 毎月1回、施設全体の運営上の改善を図るため、意見交換会を開催。
- ② 美術館の運営諮問機関である美術館協議会委員として、セラミックパークMINOの活用を促進。

## II 自主企画事業の実施及び美濃焼産業との連携

当施設の設置目的である陶磁器を主とした岐阜県東濃西部地域の産業、文化及び観光の振興をテーマとした事業を次のとおり実施しました。

### 1 美濃 陶芸作家展 2022

- ・「美濃 陶芸作家展」を3年ぶりに開催。3日間で3,662人の来場がありました。販売総額は9,901,490円で3年前の11,514,912円と比較して減少しましたが、当日券販売が好調であった為、売上総額は1千万円を超えました。
- ・コロナ禍を考慮し、初日の混雑を避けるため、意図的に初日を平日開催としました。
- ・本年は感染症を考慮しホワイエや館内(レストラン以外)での飲食出店を取りやめました。ダイドーキッチンによるレストランの営業は、感染症対策を万全に施して運営しました。(消毒、距離、会話自粛等)  
また、屋上広場で朴葉すしや栗ご飯など地元の名物をお土産として販売しました。これもダイドーキッチンが事前に製造したものを販売し、大変好評で多くが完売でした。
- ・「陶芸作家のうつわで愉しむお茶席」も感染症対策を行って開催し、3日間で284人の利用がありました。
- ・当事業は中日新聞社との共催でしたが、初日に「NHK 岐阜放送局」、「朝日新聞」からも取材がありました。「NHK」では初日の夕方のニュースで3分程度放送され、朝日新聞も翌日の朝刊記事となりました。

### 2 セラミックパーク MINO 開館 20 周年特別企画～20 年の感謝…そして未来へ…

(11月26日、27日)

- ・2日間の会期で延べ3,200人の来場がありました。
- ・今回の企画は岐阜県現代陶芸美術館にも全面協力をしていただき、当日の運営も協力体制を得て実施することができました。
- ・スペシャルイベントとしてプロジェクションマッピングを上映しました。(26日)  
名古屋造形大学に授業の一環として制作を依頼し、映像内に3市、当施設、国際陶磁器フェスティバル美濃の紹介動画も取り入れました。また、レーザー光線や花火、スモークなども使用しスペクタクルショーとして実施しました。  
同時に屋上広場では、子供のあそび場としてボールを壁に投げると花火映像や3市のロゴが音と共に映し出されるインタラクティブプロジェクションマッピングも開催しました。
- ・前回の国際陶磁器フェスティバル美濃で中止となった「アールブリュット美濃展」「Re:食器企画」「お茶会」も開催しました。また「こども広場エリア」を国際会議場に設置して、紙粘土あそび、ロクロ体験などを開催しました。
- ・月に一度の「楽々市」も同時開催しました。

- ・オープン間もない AEON 土岐にも協力を依頼し、アプリ会員へのイベント告知配信、店内デジタルサイネージでの告知を行っていただきました。

### 3 プロジェクションマッピング/インタラクティブプロジェクションマッピング再上映 (1月27日 17:00~19:00)

- ・来場者数は約500名でした。
- ・20周年特別企画で好評を博したプロジェクションマッピングの再上映を実施しました。子供たちを対象にしたインタラクティブプロジェクションマッピングも同時開催しました。
- ・インタラクティブプロジェクションマッピングは想定以上の子供たちの来場があり、一時40分待ちの行列となったため、18時過ぎに参加列締切を行いました。
- ・広報は幼稚園、保育園、学童、公民館を中心に依頼し、開催日は多治見市の企業展初日に併せて実施しました。

### 4 美濃焼インキュベーション事業

美濃焼のブランド価値の向上と需要創造など、産業振興を目的に以下の事業を実施しました。

#### ① 美濃焼のブランディングに効果的な異業種とのコラボレーションとして、レクサスブランドとのコレボレーション事業を実施しました。

ア レクサス販売店で配布するライフスタイルカタログ「レクサスコレクション」に掲載商品を提案しました。

(掲載実績 2021 秋冬版：7社11 アイテム、2022 春夏版：8社11 アイテム)

イ レクサスと美濃焼の匠とのコラボレーションとして紹介され、クリエイターが集まる美濃焼の産地“セラミックバレー”として、地域及び参加企業のブランドイメージの向上に貢献しました。

#### ②地域における「セラミックバレー」の普及のために、以下の事業を実施しました。

ア 商標使用の希望者に対して、使用申請の受付と使用内容のチェックを行い、商標イメージの順守に努めました。(相談件数33件)

イ セラミックバレー協議会の事業計画に参画し、事業の実施や組織運営に協力しました。

ウ 公式WEBサイト、SNSの管理、運営を行い、情報発信に努めました。

### 5 セラパーク楽々市

- ・今年度は感染症の影響なく予定通り毎月開催できました。
- ・来場者数は約500名(2日間平均)でした
- ・4月、5月は集客対策として開催日の日曜日13時より大抽選会を開催しました。(あきんど市会場で、来場者アンケート記入のお客様を対象)
- ・8月に「あきんど市」が初回から18年を迎えました。本来であれば「感謝祭」をイベント形式で行いますが、感染症の影響も考慮し、来場者へ「青空マルシェ」出店の農家さんが育てた「野菜」を先着100名×3回の配布を行い、来場に繋げる広報を行いました。

※通常、毎月第4日曜日と前日の土曜日開催(年間12回)

#### ①「あきんど市」

出店者が構成する運営委員会と連携を図り、意見交換を行い、より本催事の価値

を高め、魅力的な企画内容を目指しました。

企画継続実績が約18年となる同運営については、出店者による自主的な運営を目指すため顧問、運営委員長と連携を図りました。

② 「青空マルシェ」

地元の採れたての野菜や手作り惣菜を中心とする対人型イベントとして開催しました。

③ 森の観察会

敷地内の自然環境を生かし、施設の魅力向上を目的に、親子で参加できる自然観察会を開催しました。散策路やシデコブシの自生地を散策しながら、樹木の観察や昆虫採集、小鳥の巣箱づくりなど行いました。

④ その他

楽々市の一環として小会議室にてヨガ教室（土）やボードゲーム（日）などのミニ講座を充実させ、更なる集客を図りました。

## 6 広報に関する取組みについて

施設の知名度向上、自主企画事業の集客を目的として3市を中心に広報展開を行いました。また、記事での広報展開を重要視し、メディアへのプレスリリースを適宜、行いました。

### (1) 自主企画事業等の開催に向けた広報

自主企画事業やショップでの展示企画の際は、新聞社、県、3市の広報への情報提供をこまめに実施しました。また、催事の内容に応じて学童や保育園、幼稚園にもこまめに情報提供を行いました。

### (2) ホームページ、SNSの活用

ホームページにおいては、一般の方にわかりやすく、かつ常に最新の情報を提供するように努めました。また、SNSの発信も組み合わせ、費用を抑えながらも相乗的なPRに努めました。

特にInstagramについてはフォロワーへのフォローも行いながら情報が拡散されるように努めました。

## III 施設及び設備の維持管理

施設利用者及び来場者が“安全、安心、快適”に施設利用ができるよう、施設及び設備等の維持管理に万全を期しました。

### 1 新型コロナウイルス感染防止対策の徹底

「セラミックパークMINO新型コロナウイルス感染防止マニュアル」に基づき事業を実施し、職員等にも感染防止の徹底を指導するとともに、施設利用者へも感染防止の徹底を呼びかけました。

県予算にて購入したパーティション、非接触体温計、空気清浄機等、感染防止対策備品を貸館利用者に対して無料で貸し出す等、貸館施設利用者の感染予防に活用するとともに、催事主催者と感染防止対策について協議を実施しました。また、一定規模以上の催事開催にあたっては、県感染症対策調整課への事前相談を行う等、利用者支援を行いました。

主な対策は次のとおり。

- ① 館内の衛生消毒、換気対策等の徹底
- ② 来場者への施設内注意喚起掲示及び感染防止対策の要請
- ③ 貸館業務における利用制限、主催者への感染防止対策の要請
- ④ 作陶館、ショップ、レストランでの感染防止対策
- ⑤ 自主企画事業実施に係る感染防止対策
- ⑥ 財団職員の健康チェック
- ⑦ 貸館利用者への感染防止対策備品等の貸出

## 2 施設の維持管理に関する業務

開館から 20 年を経過し、施設の破損や経年による劣化が進んでいますが、お客様の「安全・安心・快適」な環境整備を第一に、日常・定期点検の確実な実施とともに、軽微な修繕等は迅速な対応を心掛けました。また、中長期保全計画に基づく（空調更新、照明更新）の施工に際しては、綿密な打ち合せ、調整を行いました。

さらに、感染防止のため、日常清掃においては消毒作業等を強化し、机・椅子等貸館用備品の消毒作業を実施するとともに、館内各所に消毒液や非接触体温計を設置し、来館者へ注意喚起を行う等、万全の予防対策を実施しました。

### (1) 施設の安全確認

職員による施設巡視を徹底し、目視による日々の施設の安全確認を行いました。更に、発見した不具合等は、必要な対策を、スピード感をもって実行しました。

### (2) 施設の清掃業務

館内清掃は、原則清掃員 3 名を配置させ、日常清掃を実施しました。

特に、トイレについては、常に清潔な状態を保つよう心がけました。

また、定期清掃として、フローリング床のワックスがけやガラス清掃などを次のとおり実施しました。

[定期清掃]

業務内容	実施回数	実施月
木床洗浄ワックス塗布	4 回/年	5 月、8 月、12 月、3 月
大理石洗浄	3 回/年	5 月、10 月、3 月
カーペット洗浄	2 回/年	8 月、2 月
ガラス清掃	2 回/年	9 月、3 月

緑地管理業務は、シルバー人材センターを活用し、施設の玄関口である駐車場その他敷地内の清掃、樹木管理、草刈り及び敷地内里山の下刈り等の管理を実施しました。

### (3) 施設の警備体制

警備員 1 名を常駐させ、24 時間体制で警備を行いました。

昼間は、施設内巡回を中心とし、夜間は、監視カメラ、中央監視装置などを活用した機械警備を実施しました。

緊急通報があった場合には、迅速に現場確認を行うなど、適正な警備体制で臨みまし

た。

(4) 環境衛生管理業務

「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」に基づき、適切な管理を次のとおり実施しました。

[環境衛生点検等]

業 務		実施回数	実施月
空気環境測定		1回／2か月	奇数月
飲料水検査	残留塩素測定	1回／週	毎週
	定期水質検査	1回／6か月	8月、2月
	特例水質検査	1回／年	8月
雑用水水質検査	残留塩素、ph値、臭気、外観	1回／週	毎週
	大腸菌、濁度	1回／2か月	偶数月
貯水槽清掃点検		1回／年	12月
汚水槽清掃点検		1回／6か月	6月、12月
ねずみ・害虫駆除		6か月以内に1回	9月、3月
病害虫防除		必要に応じて随時	随時

(5) 設備の保守管理

原則、設備員2名を配置させ、施設内の空調、機械設備及び電気設備の日常的、定期的な点検管理を実施しました。

故障の未然防止、故障時の早期対応に努め、年間を通じて法令上必要な有資格者による点検等を行いました。

また、下記の設備機器については、各機器の保守管理に万全を期しました。

[設備点検等]

点検内容	実施時期	点検回数	実施月
氷蓄熱ヒートポンプ保守点検	冷房開始前	1回／年	7月
	冷房期間中	1回／年	10月
吸収式冷温水発生機保守点検	冷房開始前	1回／年	5月
	冷房期間中	1回／年	7月
	冷房期間後	1回／年	10月
	暖房開始前	1回／年	10月
	暖房期間中	1回／年	1月
	暖房期間後	1回／年	5月
自動制御機器・中央監視装置定期点検		2回／年	9月、1月
消防防災設備保守点検	防火対象物点検	1回／年	1月
	機器点検・総合点検	1回／年	1月

自動ドア等保守点検		3回/年	5月、9月、1月
昇降設備保守点検		1回/月	毎月
吊物・床機構保守点検		2回/年	7月、1月
高圧受変電設備保守点検		1回/月	毎月
建築基準法第12条点検	建築物・建築設備	1回/年	3月
	昇降機等	1回/年	7月
	防火設備	1回/年	3月

#### (6) 維持管理経費の節減に向けた取組み

20年目を迎え、近年、経年劣化に伴う修繕費が増大しています。

設備保守点検などの外部委託費、電気・ガス、水道、清掃用具等の消耗品費などの維持管理経費節減の取組みを以下のとおり行いました。

- ① 電気・ガス等は、館内空調の温度管理（夏期28度、冬期20度、美術館を除く）の徹底、館内照明の間引き点灯、部分消灯の徹底等により節減に努めました。
- ② 外部委託費の内、契約期間を長期契約にできるものについては、長期契約を実施し、委託料の節減及び事務手続きの削減に努めました。
- ③ 消耗品は、計画的なまとめ買いを心掛け、費用の削減に努めました。

#### (7) 施設・設備の修繕及び中長期保全計画

- ① 利用者の安全、安心を確保するため、施設・設備の点検等により不具合の早期発見に努め、また、修繕・更新を計画的に実施しました。
- ② 中長期保全計画を策定し、継続的に状況把握し、県へ適切に報告しました。随時計画を見直すことにより、財政負担を軽減し効率的な施設保全に努めました。

### 3 危機管理体制の整備

来場者の安全確保を図るため、財団職員は普段から危機意識を持ち、関係各機関との連携強化を図り、有事の際に的確かつ迅速な対応のできる体制を目指しました。

- ① 「セラミックパークMINO危機管理規程」に基づき、地震、火災、不審者の侵入、不審物の発見などあらゆる自然災害、事件・事故への対応方法を、職員等に周知徹底しました。火災避難訓練については、今までの訓練を見直し、より実践的な訓練を美術館職員との合同で2回実施しました。
- ② 当館には、不特定多数の来場者が見込まれることから、新型コロナウイルス感染防止対策のため、各所に消毒液を設置しました。
- ③ 業務全般に係る情報処理セキュリティー対策や個人情報保護などに万全の体制を期しました。
- ④ 万一の事故等に対応するための保険に加入しました。

## IV その他

### (1) 理事会・評議員会等の開催

財団の事業計画及び予算、事業報告及び決算、各種規程の改正等、財団運営の基本的事項について、理事会、評議員会、監事監査を開催、法令に基づいた適切な運営を行いました。

理事会	5月9日	令和4年第2回	決議の省略：評議員会の開催（役員改選）
	6月14日	令和4年第3回	令和3年度事業報告・収支決算
	11月8日	令和4年第4回	決議の省略：評議員会の開催（役員改選）
	3月2日	令和5年第1回	令和5年度事業計画と収支予算
評議員会	5月18日	令和4年第2回	決議の省略：役員改選
	6月29日	令和4年第3回	令和3年度事業報告・収支決算
	11月10日	令和4年第4回	決議の省略：役員改選
	3月13日	令和5年第1回	令和5年度事業計画と収支予算

## (2) 利用促進協議会の運営

貸館施設の稼働率向上に向けた取り組みを力強く推進するために、岐阜県、多治見市、瑞浪市及び土岐市の各自治体や商工会議所、陶磁器関係団体からなる「利用促進協議会」を運営しました。また、併せて自治体、関係団体への積極的利用の働きかけを行いました。

- ・ 7月26日 令和4年度事業報告（4月～6月）について
- ・ 2月14日 令和4年度事業報告（4月～12月）について

## (3) 適正な財団運営の推進

県有施設の指定管理者、県及び3市の財政援助団体であることに鑑み、会計処理、備品管理、個人情報の取扱など、日々の業務における必要な関係法令、諸規程等についての職員研修を実施し、職員の資質向上を図り、適正な財団運営を行いました。

また、公益財団法人としての事業運営、会計処理について法令等に沿って運営するよう適正な処理に努めました。